

ゆい! のひろげ



宮古島市教育委員会
広報誌

第55号

2021/9/1発行

特集 魅力ある学校づくり推進事業について



CONTENTS

- ・スキットコンテスト
- ・九州大会出場
平良中・伊良部島中・西辺中



パニパニ☆スクール

- ・西辺中学校 上原美春さん
第31回「児童・生徒の平和メッセージ」最優秀賞受賞



連載 文化財を巡る

『スムリヤミャーカ』

発刊のお知らせ

- ・宮古島市史第2巻『祭祀編(下)』



Topics

- ・租税教育用マンガ本贈呈
- ・学校給食へのマンゴー提供
- ・前教育長宮國博氏表彰
- ・レインボーハートOkinawa竹内氏来訪

特集

魅力ある学校づくり推進事業について

市教育委員会では、児童生徒の学力向上や体力向上、豊かな心を育む取り組み等を目的とし、学校が独自に計画した事業に対して補助金を交付する「魅力ある学校づくり推進事業」を平成25年度からスタートしています。今回は令和2年度に行った各学校の実践例をご紹介します。

中学校 実践例

平良中学校

しょうらい

講師招聘による授業力向上

・新教育課程の実施に備え、その意義等を踏まえた具体的な授業づくりの在り方について全職員で学び授業実践につなげていきたい。

よりよい集団づくりの向上

・11月に i check (2回目) を実施し、その変容を共有

事業成果

・生徒が自分の考えを発表することができるようになり、お互いの関係性が改善の方向に進んでいる様子が見られる。
・道徳の授業検討会を日常的に開催し、常に協力し、情報の共有をしている。

北中学校

「確かな学力」の向上を図るため、学校と家庭の学びをリンクさせた効果的な学習活動が展開されるよう、家庭学習を中心とした指導に努める。

新しく導入したICT機器を効果的に活用するため、エナジードの教材を使用し、テキスト動画及びグループワークを中心とした学習活動の展開及びアクティブラーニング型授業を実践する。

事業成果

「家庭学習ノート（あららがまノート）」を配布し、保護者への理解と協力を得ることで家庭学習の習慣化につながった。

鏡原中学校

小・中が連携して「特別の教科 道徳」及び人権教育の推進に取り組むことにより、自己肯定感の低い生徒の自尊感情を高め学習意欲の向上や生活習慣の改善に繋げる。

道徳教育の先進的実践を推進している県外教諭を招聘し、授業に対する指導助言を聞くことにより、スキルアップを図る。

事業成果

特別支援教育、授業のユニバーサルデザイン化の専門家を招聘し、特性のある生徒や合理的配慮が必要な生徒に対する支援について理解を深める。

小・中合同の道徳の授業研修会を開催し、道徳の授業づくりや「身につけたい資質・能力」を意識した交流学習の在り方について、授業観察や協議会で理解を深めることができた。

久松中学校

簡単にプログラムを作成してロボットを動かすことによって、実践的・体験的な学習活動を通した生徒主体の学習活動が行えるように教材や学習指導の工夫・改善を図る。

プログラムを作成し、自立型制御する中で、自ら課題を見つけ解決するために必要なプログラミング的思考力を育てる。

事業成果

自立型制御ロボット、アクティビティ図を活用することで理解や把握がしやすいという意見があった。解決策を具体化することができるようになり、プログラミング的思考力を育てることができた。

西辺中学校

・朝ドリル (8:00~8:10) 10分間の実施

・授業と連動した宿題の実施

事業成果

生徒自ら学習の到達状況を振り返り、「何を知っていて何を知らないか、何を知らなければならないか」等メタ認知力が育ってきている。

また、家庭での学習習慣の形成にも繋がっており (全年宿題提出率8~9割)、学校評価における「保護者アンケート」でも高評価を得ている。

伊良部島小中学校

「考え議論する道徳」を目指し、道徳指導の実践家である現役教師をリモートによる遠隔研修会を開催、近隣学校の先生方にも呼びかけて研修会を実施

キャリア教育の一環で学校独自のキャリアパスポートノートを作成し、キャリアカウンセリングに関することやキャリア講話の記録や振り返りの記録などに活用することで、ファイリングでき、継続指導の面で効果があがるものとする。

事業成果

小中一貫校の特色ある学校づくりの3本柱のひとつである「考え議論する道徳」を推進するにあたり、リモートによる遠隔研修ではあったが、各学年の発達段階に応じた学習計画や発問の工夫等のスキルアップが図れた。

小学校 実践例

平良第一小学校

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

- ・講師招聘による授業づくり研究会及び授業研究会
- ・職員検証授業実施

事業成果

- ・校内研での実践を通して、児童一人一人が「問題を自分たちで解決していこう」とする雰囲気があり、合意形成の仕方を学び体験することで自治的能力が育まれる。
- ・児童に考えさせたいところの焦点化、ICTの活用で視覚化を計ることで、「だれでも」分かる授業を教師が実践していくことができた。

南小学校

- ・学習支援講師による補習指導を行い、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着に努める。
- ・支持的風土のある学級づくりの充実に向け、講師を招聘して学級活動の授業改善に努める。
- ・地域の自然や文化、社会、地理、産業、交通などに触れ郷土への理解を深めるとともに授業での教材として生かす

事業成果

- ・学習支援講師による補習指導
学力向上推進月間(6月24日～8月5日)に実施し調査の結果を踏まえ、3・5年で実施した。沖縄県学力到達度調査8(2月18日)や学びのたしかめ(12月9・10日)の結果で検証する。

東小学校

子ども達に新聞に対する興味や関心を高め、社会や地域文化など色々な分野に目を向けたり考えたりする機会をつくりたいと考え、まずは新聞(読売KODOMO新聞)に慣れ親しませることをねらいとして取り組んできた。

さらに、新聞記事を授業や様々な活動に活用することで、各教科に生きる言葉の力と社会に主体的に関わっていこうとする態度を育てたいと考え、実践を積み重ねてきた。

事業成果

朝の学習の時間等を利用し新聞を読み、関心のある記事を選んで感想を書く活動を行ったことで国語の授業だけでなく、他教科でも幅広く活用することができた。

鏡原小学校

低学年から国語辞典に親しむ活動を通して語彙力を高める

思考力を支える語彙力の育成をめざし、低学年から国語辞典を購入し、学校全体で国語科を中心に「朝の学習」や「放課後補習」を活用して辞典の使い方の理解や調べる活動に継続して取り組んだ。

事業成果

- ・継続した辞典の活用により、ことばに興味を示し、自主的にことわざカードを作成し毎週月・木曜日に掲示(4年生)にしたり、昼休みを使ってかるた遊び(1年)等に取り組むようになった。
- ・他の図鑑や事典などに興味を示し、四字熟語調べや漢字辞典の活用に広がり、語彙に関する意欲が高まってきた。

西辺小学校

オリジナル家庭学習帳の活用

低、中、高学年に学校オリジナルの家庭学習帳を作成し、全学年一貫した家庭学習の指導を行う。
1冊修了する毎に、保護者の励ましや担任からのコメントをもらう。

事業成果

- ・「自学・自習」主体的な学習意欲の向上と毎日の家庭学習の定着を図ることができた。
- ・保護者、担任、学校長からのフィードバックや励ましを受けることで児童の学習態度や意欲の向上を図ることができた。

福嶺小学校

現代的な諸問題である「郷土や地域に関する教育」の必要性から重要無形文化財「宮古上布」に見識のある大学教授を招聘し、総合的な学習の時間に地域の伝統文化継承の一環として、年間を通して体験活動の充実を図った。また、キャリア教育の視点を踏まえ教科横断的な教育内容の充実にも努めた。

事業成果

- ・「学麻から世界に一つだけの卒業証書」を制作できた。
- ・学麻活動で調べたことの発表や体験の感想等表現させ承認することで、自己肯定感の高まりがみられた。
- ・福島県昭和小学校との交流学習で「越後上布」も学麻が材料であることを学び、他県の産業等への関心が高まった

宮古島市の目標

『心豊かで創造性・社会性・国際性に富む人材の育成と生涯学習の振興』

- 幼児・児童・生徒の自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指す。
- 誇りある郷土文化の継承・普及に寄与するとともに、島の未来を拓く新たな時代に対応できる創造性溢れる人材育成を目指す。
- 学校・家庭・地域社会が相互に連携を密にし、生涯学習社会の実現を目指す。

